

大阪「中之島」

大阪でよく訪ねるのが「中之島」界隈である。潤いと風格が感じられ、大阪の歴史を考えさせられる。

写真上は「大阪府立中之島図書館」である。建物案内によると、本館は明治 37 年に第 15 代住友吉左衛門氏の寄付によってつくられた。外観はルネサンス様式を、内部空間はバロック様式を基本としながら、優れたデザイン力による格調の高い建物である。コリント式円柱に支えられる正面はギリシャ神殿を、ドーム状の中央ホールは教会を思わせる造りとなっている。大正 11 年に住友家の寄付により左右の両翼が増築された。昭和 49 年には本館及び左右両翼の 2 棟が国の重要文化財に指定されている。



この図書館は大学院の頃に何回も通った。当時は建物をじっくり眺めるより、資料の収集とコピーに追われていた。久しぶりに訪れて、昔と変わらない景観と雰囲気を感じ銘した。耐震工事中で 3 階は利用できなかったが、2 階の新聞・雑誌コーナーを利用した。確か橋下府知事の時代に、「二重行政」の一つとして、やり玉にあがったことを覚えている。こうして耐震工事をしており、大阪の「歴史遺産」として、現在のように図書館として存続させてもらいたい。

下の写真は、堂島川を渡ってから「中央公会堂」を撮ったものである。大阪は都心を流れる川と橋が、殺伐とした都市空間に貴重な潤いをもたらしている。その右は大阪市役所である。

中央公会堂も経済人の寄付により大正 7 年にオープンした施設であり、日本の近代建築史上重要なものとして、平成 14 年に国の重要文化財として指定されている。ここにも講演会などで何回も訪れたが、リニューアル後はコンサートなどの会場としても幅広く活用されているという。



土佐堀川と堂島川にはさまれた「中之島」は、日本銀行や東洋陶磁器美術館、フェスティバルタワーやホテルなど、大阪を代表するビジネス・芸術文化の空間となっている。とりわけ「中之島公園」は都心のオアシスとして、多くの人たちに活用されている。市役所や図書館に行った折に、いつも散策したものである。

「中之島」から裁判所を経て、梅田に向かって歩く途中で、「老松通り古美術祭」が開催されていた。ここでも、昔ながらの大阪の風情を感じた。

(2014 年 11 月 7 日)